



エヌ・イー・ピーLEDランプ LH-13

スタジオビーンプロダクション 今尾 智介

ビデオ用バッテリーメーカーとして知名度の高いエヌ・イー・ピーから、新しいコンセプトで開発されたLEDライトが発売された。既存のLEDを使ったライトは、筐体とランプ部が一体となったものが主であったが、今回、試用レポートで紹介するLH-13は、TPOに合わせた運用が可能なLEDランプとなっている。つまり、カメラシューを介して運用する際は専用筐体PVLED-1を使い、ENGロケで使用される一般的なバッテリーライトで光を当てたいときは、ハロゲンランプの代わりにバッテリーライトの筐体に据え付けることができる。

■ バッテリーライトで試用してみる

一般的なバッテリーライトのランプはハロゲンランプであり、このハロゲンランプの代わりにLEDを採用したのがLH-13である。よって、DC12V仕様だ。灯体への装着はハロゲンランプの交換と同様の手順で可能である(写真1)。

通常、白色LED照明の色温度は6000K程度のデータ強い色温度なのだが、LH-13はハロゲンランプに近い3800Kとなっている。

つぎに光量である。実際の現場を考えるとLH-13の光量では、少々物足りないと感じた。光量を記したデータが存在しないため詳細はわからないが、たとえていうならば「ハロゲンランプ仕様のバッテリーライトを放電させた最後の状態」に近い明るさといえる。メーカーの今後に期待したいところである。

ハロゲンランプの筐体に装着して試用写真を撮ったが、暗闇に近いところではLEDの照明が利くことを確認できた(写真2)。発熱量は驚きの低さであり、消費電力の少なさからBP-90タイプを2本並列につなぐタイプのバッテリーライト本体では1日中オンにしているだけでもダウンすることはないであろうと思った。

筐体一体型のLEDライトは、特別意識しないと現場に持参しないものである。バッテリーが特殊であったり、カメラトップ専用といったつくりが運用を阻害していた。LH-13の登場によりLEDライトが多用される日が近いといっても過言ではない。

価格：LH-13；¥2万1000(税込) PVLED-1セット；¥4万2000(税込) 問い合わせ先：エヌ・イー・ピー 03(3263)6741 URL：<http://www.nepinc.co.jp>



写真1 エヌ・イー・ピーLH-13ランプ。後ろにあるコネクターは、バッテリーライトのコネクターと同形状



写真2 ランプの光量は少々物足りなさを感じるが、暗所に近いところなどでは、十分な光量が得られる